

人権フォーラム2020 in 松山

入場
無料

演劇「光りの扉を開けて」

沖縄の若者らが
中心となって演じます!!



ハンセン病
のこと

エイズ
のこと

共に生きる
ということ

< 前回演劇を観た感想 >

- ・深い闇の中に、希望を見ました。
- ・頭から冷水を浴びらせるように衝撃を受けました。
- ・涙がボロボロでした。とても思いと熱のこもった演劇に心を動かされました。
- ・人として、生きること、尊敬とその在り方を今一度考える機会となりました。

2020年

2/8 土

松山大学 カルフルホール

(〒790-8578 愛媛県松山市文京町4-2)

開場：12:30 (開演13:00～終演15:10)

定員：500名

● 駐車場について・・・ 駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。障がいをお持ちの方等については、駐車可能です。

主催：松山市、松山大学「光りの扉を開けて」上演実行委員会、HIV人権ネットワーク沖縄

共催：全国ハンセン病療養所入所者協議会

後援：松山市教育委員会

お問い合わせ：ハンセン病問題に関するシンポジウム事務局

(松山大学上演実行委員会 / TEL: 089-926-7074、NPO法人HIV人権ネットワーク沖縄 / TEL: 090-1941-4012)

メールアドレス: jinken.forum@gmail.com ホームページ: <http://www.hiv-net.com>

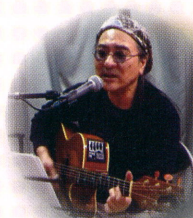
入場
無料

プログラム

- 1, オープニング (宮里 新一)
- 2, 主催者代表あいさつ
- 3, プレゼンテーション
(広島盈進中学校 ヒューマンライツ部 生徒&OG)
- 4, 演劇「光りの扉を開けて」
- 5, フィナーレ(大合唱)



広島盈進中学校
ヒューマンライツ部 生徒&OG



オープニング
宮里 新一



特別ゲスト
花井 十伍さん

演劇「光りの扉を開けて」の紹介



あらすじ

HIVに感染していることを告げられた女子高生「めぐ」。身近な人から差別や偏見におびえる中、ハンセン病回復者である「八重子おばあ」と出会う。「八重子おばあ」から語られる想像を絶する過去。そんな中で生きる勇気を得るきっかけを見つけることになる…。

演劇の推薦

平良 仁雄「ハンセン病回復者・沖縄愛楽園ボランティアガイド」



私は多くのハンセン病回復者と同じように、ハンセン病だったことを隠して生きていました。そんな私が8年前、「光りの扉を開けて」の練習に取り組む子ども達に出会い変わりました。

純粹に本物の涙を流しながら演ずる子ども達を見て、心の中で何かが動き出したのです。

それは自分でも驚くほど大きなもので、気がつくや隠れていたはずの場所・沖縄愛楽園のボランティアガイドに応募していました。

いま思えば私は、その時その子たちの「心の温かさ」を確かに肉眼で見たのです。それは本物の「愛」だったのです。皆さんに望みたいもの、それは「心の温かさ」です。人権や平和をいくら訴えても、その心の温かさがなければ意味をなしません。同時に大切なのは自分が変わることです。あなたが変われば家庭も社会も変わります。自分自身の力を軽く見ないでください。この演劇は感動するだけでなく、観た人の力を引き出してくれるものです。

神 美知宏 「元ハンセン病療養所入所者協議会会長」



子ども達を中心に展開されるこの演劇は、日常的になんの意味も持たず通り過ぎていく人々を立ち止まらせ、考えさせる強いインパクトを持っています。

人間が本質的に持っていなければならないことを教えられ、真の幸せとは何か示されています。

この演劇には社会を変える力があると思います。観た人の心の中にいつまでも余韻として残ることでしょう。一人でも多くの人に、この演劇を観ていただきたいと強く願います。